

新型コロナウイルス対応の件（26）

令和3年5月27日

公益財団法人兵庫県剣道連盟

「少年剣道の集い」「地区別剣道交流大会」参加について

6月20日（日）に兵庫県立武道館開催予定の「少年剣道の集い」「地区別剣道交流大会」は新型コロナウイルス感染拡大予防のため**無観客で開催**します。感染力の高い変異ウイルスの心配もありますので、選手は、下記事項を確認してご参加ください。

- 1 選手は、出場選手確認票（用紙は兵剣連ホームページの申請書フォームにあります）を持参し、受付で提出。
- 2 発熱・咳等の症状がある者・濃厚接触の可能性のある者は参加できない。
- 3 試合中は面マスクを正しくつける（鼻を出さない）。シールドの着用を強く推奨します（60歳以上は目・鼻・口を覆うシールド）。試合時以外ではマスクの着用。
- 4 会場内では、常にソーシャルディスタンスを心がける。
- 5 試合は全剣連の【暫定的な試合・審判方法】による。試合者は、鍔競り合いを避け、やむを得ず鍔競り合いになった時は掛け声を出さず、直ぐに分かれるか引き技を出す（引き技時の発声は認める）。
- 6 審判員は、試合時にマスクを着用する。また、各自の審判旗を持参して使用。
- 7 その他、係員・審判員の指示に従う。

次ページに、コロナ収束までの暫定的な試合審判法の資料を付けています。指導者の方は参考にしてください。また、その内容を全剣連ホームページの「全剣連TOP」→「最新のお知らせ」の中に暫定的な試合審判法の動画で確認できます。参考にしてください

以上

第 56 回剣道中央講習会資料

令和 3 年 4 月 4 日(日)

於：神戸市立中央体育館

試合・審判委員会 委員長 香田郡秀

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法

【趣旨】

1. 主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインの遵守(感染予防)
2. 「つば(鍔) 競り合い」および意図的な「時間空費」や「防御姿勢による接近する行為」の解決。
 - ・これまでの試合は試合時間の 3 分の 2 以上が、つば(鍔) 競り合いである。これを無くして、立ち会いの間合からの攻め合いを中心とした試合展開へ。
 - ・剣道の試合にとって「勝負」の要素は大事であるが、姑息な勝負の仕方の是正。反則ギリギリの勝負ではなく真っ向から勝負をする態度を養う。
 - ・つば(鍔) 競り合い問題は試合者の態度や心の問題が大きく影響し、規則だけで裁くのは困難である。試合者と審判員が共通理解し、一体となって、良い試合の場を醸成する。

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

1. 試合者はつば(鍔) 競り合いを避ける。接触した瞬間の引き技及び体当たりからの技(発声を含む)を積極的に出す。つば(鍔) 競り合いになった瞬間、技が出ない場合にはただちに積極的に分かれる。試合者は審判員の「分かれ」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。
2. 意図的な時間空費や防御姿勢(勝負の回避)による相手に接近するような行為は、規則第 1 条に則り反則を適用する。
3. 試合者は、分かれる場合は主審の「分かれ」の宣告、あるいは試合者双方で分かれる場合にかかわらず、剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。
4. 分かれる場合は剣先を開いたり、下げて分かれられない。
5. 分かれる場合は双方がバラバラに下がらない。双方同じ気位で互いの鎧を削るようにして分かれる。
6. 相互に分かれようとしている途中に技を出さない。この場合は技を出しても有効打突とはしない。一方が分かれようとしている場合に追い込んで打突した場合や分かれようと思せかけて打突する行為は反則を適用する場合がある。また、分かれる途中に相手の竹刀を「叩いたり」「巻いたり」「逆交差」をしない。(審判員は状況や原因を踏まえた上で合議により判断する)
7. マスクとシールドの着用
マスクは、口鼻を隠し、正しく装着する。
シールドに関しては、口を覆うものは必須とし、目を覆うものは自由とする。

以上